

## (7) 【実践事例 1】

1 年	本を推薦するためにPOPを作ろう～描写に着目して読もう～	そこに僕はいた	東京書籍
-----	------------------------------	---------	------

## ■ 言語活動について

本単元では、学習指導要領第 1 学年「C 読むこと」の (2) に位置付けられている言語活動例の「ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること」を参考にして、小説を読み、内容や表現を推薦するためにPOPを作成するという言語活動を位置付けました。この言語活動を通して、「描写」に着目して読み、内容の理解を深めたり、自分の考えを広くしたりすることを指導します。

## 課題解決に向けた授業改善のアイデア



■ 目的や意図に応じて文章を読ませる指導	POPを作成する言語活動を設定し、作品を推薦するという目的を示して文章を読ませます。ここでは「作品の見どころ」となる「描写」を引用して、本を推薦し合う活動を仕組みます。
■ 「学習用語」を生かした指導	文章を読む視点として「描写」（文学的な文章を読むための学習用語）を取り上げます。単元の導入で「描写」の意味の共通理解を図ります。
■ 既習教材を生かした指導	小学校教材「サーカスのライオン」（東京書籍 3 年下）を用いて、「描写」に着目して読む練習を行わせます。既習の教材を使うことで、情景描写や心情表現を表す「描写」についての理解がしやすくなります。
■ 文章を読む視点を基に、分析的に読ませる指導	作品の内容を理解するために、「描写」に着目して作品を読ませます。作品を読む際に、全文を記したワークシートを用い、人物の心情が読み取れる「描写」にマーキングをさせます。「描写」を文章を読む視点として、作品を読ませます。

## 単元の目標

- (1) 人物の「描写」に着目して読み、内容の理解を深めることができる。
- (2) 書かれていることを基に、作品の見どころについて自分の考えをもつことができる。

## 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ 作品の見どころを推薦するためのポップ作りに関心を持ち、意欲的に読もうとしている。	・ 登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み、内容の理解を深めている。〔読むこと (1) エ〕	・ 文章を読んで語句の意味が分からない語を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (イ)〕

## 指導と評価の計画（全 5 時間）

時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	1 これまでの読書活動を振り返る。 2 学習課題「本を推薦するためにPOPを作ろう」を設定し、学習計画を確認する。 3 作品を推薦するためのPOPに必要な条件を知る。 4 既習教材を用いて、「描写」に着目して読む練習をする。 5 本文を通読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦と紹介の違いを確認させる。</li> <li>・本単元で学んだことを生かし、自分のおすすめの本のPOPを作成し、今後の読書活動につなげていくことを確認する。</li> <li>・POPのモデルを示す。</li> <li>・小学校での既習教材「サーカスのライオン」（東京書籍3年下）を用い、「描写」に着目して文章を読む練習をする。</li> <li>・「描写」に着目し、本文ワークシートにマーキングをしながら読ませる。</li> <li>・語句の意味が分からない語を辞書で調べ、ワークシートにメモをさせる。</li> </ul>	〔関心・意欲・態度〕 <b>【ワークシート①】</b> <b>【観察】</b> 〔読む能力〕 <b>【ワークシート②】</b> 〔言語についての知識・理解・技能〕 <b>【ワークシート②】</b>
2	6 マーキングした本文ワークシートを基に、POPに載せたい内容を整理する。 7 キャッチフレーズを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の見どころとなる「描写」を引用し、その表現を選んだ理由を書かせる。</li> </ul>	〔読む能力〕 <b>【ワークシート③】</b>
3	8 POPに載せたい内容をグループで交流する。 9 キャッチフレーズを再検討する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・POPに載せたい内容の良いところをチェックリストを基に見つけさせる。</li> </ul>	〔読む能力〕 <b>【チェックリスト】</b>
4	10 POPを完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦したい理由が伝わるよう、工夫を加えてPOPを仕上げさせる。</li> </ul>	〔読む能力〕 <b>【完成したPOP】</b>
5	11 友達のPOPの「描写」や見どころの伝え方の良さを紹介する。 12 着目した「描写」や作品の見どころを基に、新たな視点で作品を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・POPの中に使われている言葉を使って120字で説明させる。</li> <li>・「描写」に着目して読むことで、内容の理解が深まったり、自分の考え方が広がったりすることに気付かせる。</li> </ul>	〔読む能力〕 <b>【ワークシート④】</b> 〔関心・意欲・態度〕 <b>【観察】</b> <b>【ノート】</b>

## 指導計画（1 / 5 時）

## (1) 目標

- ・本を推薦するためのPOPに必要な条件を知り、「描写」に着目して文章を読むことができる。

## (2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 これまでの読書活動を振り返る。	斉	○おススメの本を挙げさせて、紹介させる。 ○推薦と紹介の違いについて考え、国語辞典を引かせて違いを確認させる。
	2 単元の目標を知り、学習計画を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">「本を推薦するためにPOPを作ろう」</div>	斉	○作品の見どころを推薦するために、文章を読んでいくことを確認する。 ○本単元で身につけた力を今後の読書活動に生かしていくことを意識させる。（自分のおススメする本のPOPを作成する）
	3 本時の目標を知る。	斉	※身に付けさせたい力 表現に着目して文章を読み、文章に書かれた内容を理解する力→（文書を解釈する力）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">学習目標「作品の見どころを見つけるために『描写』に着目して読もう」</div>			
展開	4 作品を推薦するためのPOPに必要な条件を知る。	斉	○POPのモデルを示し、POPに必要な条件を確認する。
	5 既習教材を用いて、「描写」に着目した読み方の確認をする。	個	○作品の見どころを見つけるために、文章を読む視点として「描写」を取り上げる。 ○小学校での既習教材「サーカスのライオン」（東京書籍3年下）を用い、登場人物の心情が読み取れる「描写」にマーキングをさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">〔関心・意欲・態度〕 「描写」に着目して意欲的に文章を読んでいる。 【ワークシート①】【観察】</div>
	6 本文を通読する。	個	○全文ワークシートを配布し、人物の心情が読み取れる「描写」にマーキングをしながら読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">〔読む能力〕 登場人物の心情が読み取れる「描写」にマーキングをしながら文章を読んでいる。 【ワークシート②】（教科書全文抜き出し） ※著作権に配慮して掲載していません。</div>
まとめ	7 次時の見通しをもつ。	斉	○次時は、マーキングした本文ワークシートを基に、推薦したい内容を整理することを伝える。

(3) 単元のねらいと本時の関わり

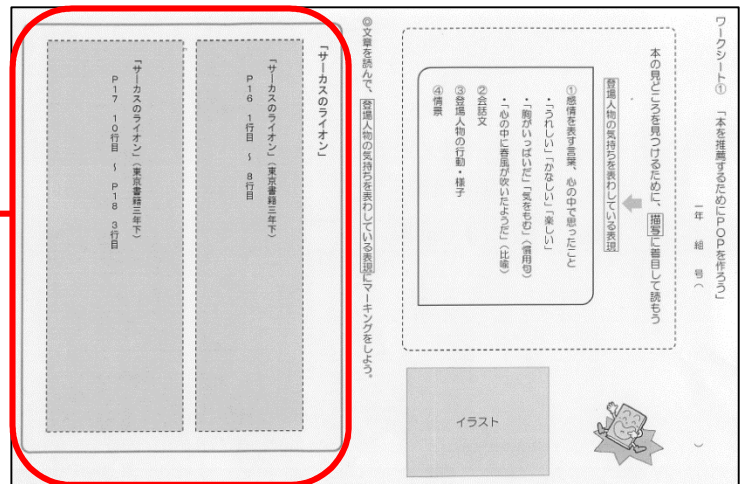
本単元では、POPを作るという言語活動を設定し、作品を読んでいきます。しかし、POPを作成することが学習の目的ではありません。内容や表現を推薦するために、「描写」に着目して文章を読むことを学習する単元です。そこで、本時の学習においては既習教材を用いて、「描写」の意味を確認し、人物の心情が読み取れる「描写」に着目して読む練習を行います。

(4) 【ワークシート①】生徒の記入より

○小学校での既習教材「サーカスのライオン」（東京書籍3年下）を用い、「描写」に着目して読み、登場人物の心情が読み取れる「描写」にマーキングをする。

(生徒のマーキング例)

- ・ **目を細くして受け取った。**
  - ①感情を表す言葉  
(うれしい気持ち)
- ・ **まっしぐらに外へ走り出した。**
  - ②登場人物の行動・様子  
(あわてて、一心に前だけを見ている様子)



達富教授の「学びどき・教えどき」

# 中学校国語



## ① 学習課題・学習計画

学習課題を「指導事項」「思考操作」「言語活動」の3つのことがらを組み合わせ設定してみてもいいでしょうか。まず、つける力を学習指導要領に示されている指導事項に準拠して明確にすることです。次に、生徒がそれを主体的に学ぶことができるのにふさわしい言語活動を設定します。そのときに、その言語活動を価値ある学習として実現するための思考操作を具体的に示すことを忘れてはいけません。「指導事項」「思考操作」「言語活動」の順に一文にすると子どもに伝わりやすいようです。

中学校2年の小説を「読むこと」では、「作品を読み登場人物の行動や考え方について自分の考えをもつ」学習を設定することがあります。この場合であれば《【指導事項】メロスの行動や考え方について共感できたところや違和感をもったところの自分の考えを、【思考操作】複数の描写や会話を取り出して場面の変化と関連させて比較し、【言語活動】新聞の書評欄のように書く。》というように設定すると分かりやすいと思います。

## 指導計画 (2 / 5 時)

## (1) 目標

- 人物の心情が読み取れる「描写」の中から、POPに載せたい表現を引用し、おすすめする理由とキャッチフレーズを書くことができる。

## (2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価規準【評価方法】</span>
導入	1 前時の学習内容を振り返り、本時の目標を確認する。	斉	○前時に用いた【ワークシート②】を準備させる。 (描写に着目して読み、マーキングした全文ワークシート)
	学習目標「人物の心情が読み取れる『描写』から、POPに載せたい内容を整理しよう」		
展開	2 人物の心情が読み取れる「描写」の中から、作品の見どころとしておすすめしたい内容を整理する。	個	○マーキングした「描写」の中から、作品の見どころとしておすすめしたい「描写」を選ばせる。 ○作品の見どころとなる「描写」を引用し、その「描写」を選んだ理由をワークシートに書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">〔読む能力〕 人物の心情が読み取れる「描写」と、その「描写」を選んだ理由を書いている。【ワークシート③】</div> ※次頁(4)【ワークシート③】生徒の記入より 参照
	3 引用した「描写」とその「描写」を選んだ理由を基に、作品のキャッチフレーズを考える。	個	○キャッチフレーズの内容が、引用した「描写」、選んだ理由と関連するように指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">〔読む能力〕 作品の見どころとして、おすすめしたい「描写」を基にキャッチフレーズを書いている。【ワークシート③】</div> ※次頁(4)【ワークシート③】生徒の記入より 参照
まとめ	4 次時の見通しをもつ。	斉	○次時は、POPに載せたい内容を基に、グループで交流することを伝える。

## (3) 単元のねらいと本時の関わり

人物の心情が読み取れる「描写」の中から、作品の見どころとしておすすめしたい表現を選び、POPに載せたい内容をまとめます。引用した「描写」、選んだ理由、キャッチフレーズが関連した内容になるように指導します。



(4) 【ワークシート③】生徒の記入より

○人物の心情が読み取れる「描写」を基に、POPに載せたい内容を整理する。

ワークシート③「本を推薦するためにPOPを作ろう」  
一年組 〇〇 名前

② POPに載せたい表現（描写）を選んだ理由を書こう。

① マーキングした人物の心情が読み取れる「描写」から、POPに載せたい表現を引用しよう。

（参考）  
人物の心情が読み取れる「描写」を基に、POPに載せたい内容を整理しよう

↓

③ キャッチフレーズを考えよう。

引用した「描写」と、その「描写」を選んだ理由を基に、本を推薦するキャッチフレーズを考えよう

(生徒の記入例)

	生徒A	生徒B
① POPに載せたい表現	「ありがとう。」	「電車がその子猫に向かって迫りよった。あっ、と叫んだ瞬間には俺の体は踏切の中へ潜り込んでいたったい。」
② POPに載せたい表現を選んだ理由	今までなんでも1人で頑張ってきたあーちゃんは、負けず嫌いで助けてもらっても素直になれなかった。しかし、自然に僕が手を差し出すと、「ありがとう」という言葉が返ってきた。この言葉は、あーちゃんが初めて素直になれた瞬間で、友情を感じたから。	あーちゃんは、ただ負けず嫌いなだけだと思っていたけれど、話が進んでいくにつれて、優しい思いがあることが分かっていき、いつの間にか仲良しになっていくところがおもしろい。
③ キャッチフレーズ	「ありがとう。」この言葉の本当の意味とは？あーちゃんと僕の友情物語	僕の目には何が見えてきたのか？1つのきっかけから始まる友情物語！！






## 指導計画（3 / 5 時）

## (1) 目標

- ・POPに載せたい内容をグループで交流し、選んだ「描写」を基に作品の見どころを伝える内容になっているかを検討することができる。

## (2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 前時の学習内容を振り返り、本時の目標を確認する。	斉	○POPに載せたい内容の項目を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の見どころとなる「描写」の引用</li> <li>・その表現を選んだ理由</li> <li>・キャッチフレーズ</li> </ul> </div>
	<b>学習目標「POPに載せたい内容をグループで交流し、選んだ『描写』を基に作品の見どころを伝える内容になっているか検討しよう。」</b>		
展開	2 交流の目的を確認する。	斉	○POPに載せたい内容の項目を示したチェックリストを用いる。
	3 グループでお互いのPOPに載せたい内容の良いところをチェックリストを基に見つける。 	G	○チェックリストを基に、POPに載せたい内容に着目させてコメントを書かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の見どころとなる「描写」の引用</li> <li>・その表現を選んだ理由</li> <li>・キャッチフレーズ</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔読む能力〕 POPに載せたい内容が、選んだ「描写」を基にして関連した内容になっているか検討してコメントを書いている。 【チェックリスト】</p> </div> <p>※次頁(4)【チェックリスト】参照</p> 
	4 グループでの交流を基に、キャッチフレーズについて再検討する。 5 交流を通して、変わったところを確認する。	個  斉	○作品の見どころを伝えるキャッチフレーズが書けているか、見直しをさせる。 ○交流前後の変化について理由を添えて発表させる。 
まとめ	6 次時の見通しをもつ。	斉	○POPに載せたい内容に工夫を加えてPOPを完成させることを伝える。


(3) 単元のねらいと本時の関わり

おすすめしたい「描写」の引用とおすすめする理由からキャッチフレーズを考えることができるかについて交流をして検討させます。

(4) チェックリスト

【チェックリスト】（グループ用）

1 「POPに載せたい内容」をチェックしよう  
2 グループ全員のPOPをお互いにチェックしよう



さんのPOP

チェックした人		○ ×
1	作品の見どころとなる表現（「描写」）	
	作品の見どころとなる表現（「描写」）を引用しているか。	
2	選んだ理由	
	表現（「描写」）を選んだ理由が書かれているか。	
3	キャッチフレーズ	
	引用した表現（「描写」）とその理由を基にしてキャッチフレーズを考えているか。	
《コメント》		

チェックした人		○ ×
1	作品の見どころとなる表現（「描写」）	
	作品の見どころとなる表現（「描写」）を引用しているか。	
2	選んだ理由	
	表現（「描写」）を選んだ理由が書かれているか。	
3	キャッチフレーズ	
	引用した表現（「描写」）とその理由を基にしてキャッチフレーズを考えているか。	
《コメント》		

チェックリストはグループの人数に応じて準備をします。

達富教授の「学びどき・教えどき」

中学校国語



② 言語活動の設定

何よりも大切なことはその単元を通してつける力を選び明確にすることです。そして、その力が効果的につくと考えられる言語活動を設定することです。その後、それに必要な時間や学習材、てびきなどの詳細を検討することになります。

言語活動は学習指導要領や教科書に示されている例も大いに参考になりますが、生徒の学習経験や興味関心、適時性、地域性などにもよりますから、柔軟に設定するほうがいいでしょう。新聞や雑誌、インターネットなどが参考になりますし、本屋や文具店、デパートを歩くだけでも言語活動になる素材は容易に見つかります。そして、言語活動がほぼ決まれば、まず教師がその言語活動を行ってみることです。実際にやってみることなしに成功はあり得ません。自らが体験することで、その言語活動の魅力も課題も見えてきますし、具体的なてびきの必要性も実感できます。



## 指導計画 (4 / 5 時)

## (1) 目標

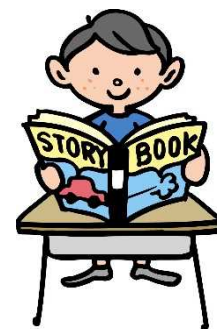
- ・本の見どころを推薦するPOPを仕上げることができる。

## (2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 前時の学習内容を振り返り、本時の目標を知る。	斉	
	学習目標「推薦したい理由が伝わるPOPを完成させよう」		
展開	2 自分が推薦したい内容が、POPを見た人に伝わるように完成させる。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>○POPを作る目的と内容を再確認させ、交流したことを基にPOPを作成させる。</li> <li>○POPに載せたい内容に工夫を加えてPOPを作成させる。</li> <li>○本を読んだことがない人が手に取りたくなるようなPOPを作成させる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">《工夫点》推薦したい理由を分かりやすく表現し、配置している。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">〔読む能力〕 本の見どころを根拠に、推薦したい理由が伝わるようにPOPを仕上げている。【完成したPOP】</div>
	3 完成したPOPを読み合う。	G	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアまたはグループでPOPを読み合い、工夫点についてコメントを書かせる。</li> </ul>
まとめ	4 次時の見通しをもつ。	斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次時は、完成したPOPから5枚選び、自分の考えを書くことを伝える。</li> </ul>

## (3) 単元のねらいと本時の関わり

第2時、第3時で取り上げたPOPに載せたい内容を基に、推薦する理由が伝わるように工夫を加えてPOPを完成させます。



## 指導計画 (5 / 5 時)

## (1) 目標

- ・POPの特徴に触れて、「描写」や見どころの伝え方の良さを紹介することができる。

## (2) 展開

	学習活動	形態	指導上の留意点 評価規準【評価方法】
導入	1 前時の学習内容を振り返り、本時の目標を確認する。	斉	○POPには、着目した「描写」を基に本の見どころが書かれていることを確認する。
	学習目標「POPの特徴に触れて、『描写』や見どころの伝え方の良さを紹介しよう」		
展開	2 生徒作品の中から選ばれた5枚のPOPを見る。	個	○生徒作品の中から選んだ5枚のPOPを黒板に掲示する。(クラスの規模によって枚数は増減させる。)
	3 5枚のPOPから1枚を選び、そのPOPの良さを他のクラスや他の学年の生徒へ紹介する文章を書く。(120字)	個	○友達が着目した「描写」や見どころの伝え方の良さに注目させて書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           [読む能力]            ・「描写」や見どころの伝え方の良さについて、自分の考えを書いている。 【ワークシート④】         </div> ※次頁(4)【ワークシート④】の記入より 参照
	4 見どころの伝え方の良さを伝える文章を読み合う。	G	○同じPOPを選んだ者同士で紹介し合う。
まとめ	5 「描写」に着目した読み方を振り返り、作品を読み返す。	斉	○着目した「描写」や作品の見どころを基に、新たな視点で作品を読ませる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           [関心・意欲・態度]            ・「描写」に着目して読み、内容の理解の深まりや考えの広がりを話したり書いたりしている。 【観察】【ノート】         </div>
	6 単元の振り返りをする。		○自分がおすすめする本のPOPを作成する課題につなげる。

## (3) 単元のねらいと本時の関わり

単元で身につけた「描写」に着目して読む力を基に、「描写」や見どころの伝え方の良さについて紹介する文章を書きます。

## (4) 【ワークシート④】生徒の記入より

○5枚のPOPから1枚選び、そのPOPの良さを他のクラスや他の学年の生徒へ紹介する文章を書く。(120字)

- 【条件】(1) 「描写」や見どころの伝え方の良さについて自分の考えを書く。  
(2) 100字以上、120字以内で書く。

## (生徒の記入例)

・私がいいと思ったところは、「みんな同じ人間。義足を見られてもなんともない！」と書いてあるところです。ここでは、POPを書いた人が、登場人物に感情を入れてあーちゃんになりきって表現している点がいいと思いました。(103字)

・キャッチフレーズの「自分のことは自分でやる」のところから読んでみたいと思い、選びました。この作品では、このPOPを作った人が感動した部分をおすすめする理由にしている、この作品に対してどう思ったかを表現しているところがいいと思いました。(116字)

達富教授の「学びどき・教えどき」

## 中学校国語



## ③ ふみ込んだ課題

生徒が自ら課題を発見し、その課題の解決に向けて主体的に協働して学ぶような学習をめざすことが大切ですが、そのために、一問一答の問題を繰り返すのではなく、深い思考をするにふさわしい値打ちのある課題に向かって学習を連続させ、その過程で発見した学びの成果を自ら意味づけてひとまとまりのものとして表現する課題を設定してみてもいいでしょうか。

簡単な質問を繰り返すことで定着を図ることもありますが、ふみ込んだ課題（深い思考をいざなうような課題）を設定し、学び合う場面を設定することも必要です。ふみ込んだ課題を解決しようとするからこそ、自分が学習計画を立てることや自らの問いをもつことにも真摯になります。

達富教授からのアドバイス

## グループ活動の編成・形態について

グループ活動をする際に、人数は3人が適当だと言われました。3人で2つの机を向かい合わせることで、生徒同士の距離が近付き、全員が発言をして活発に交流する姿が見られます。達富教授は「国語のグループ活動が人間関係を作り、学級経営にも生かされる」とおっしゃっています。

## 成果と課題

## 課題解決に向けた授業改善のアイデアについて

## ◇目的や意図に応じて文章を読ませる指導

POPを作るという言語活動を設定し、内容や表現の良さを推薦するために「描写」に着目して読むことを学習のねらいとしました。POPを作ることを通して、「描写」に着目して読むことが毎時間の学習に生かされるのかを意識して単元の指導計画を立てました。

## ◇「学習用語」を生かした指導・既習教材を生かした指導

授業の導入で、小学校教材「サーカスのライオン」を用いて、文学的な文章を読むための学習用語である「描写」に着目して内容を理解する学習の確認を行いました。「描写」の意味や用法について共通理解を図ることができ、「描写」に着目して読む練習をすることができました。

## ◇文章を読む視点を基に、分析的に読ませる指導

場面ごとに作品を読んでいくのではなく、「描写」という視点を基に作品全体を通して読む指導を行いました。生徒は、人物の心情が読み取れる「描写」に着目し、マーキングしながら文章を読み内容の理解に役立てました。

## ◆言語活動の設定について

実践事例では、POPを作成するという言語活動を設定しました。しかし、「描写」に着目して文章を読み、内容や表現を推薦するための言語活動として、POPの作成が最適だったのかということが課題として出てきました。単元を通してつける力に応じた適切な言語活動を設定することを、来年度の研究で探っていきたいと考えています。

